



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



閉館した「豊岡劇場」を 再び地域の文化の拠点に！

平成24年3月、多くの方に惜しまれながら閉館した豊岡劇場。年内の復活に向け、仲間とともに挑戦する元気な男性を紹介します。

石橋 いしばし 秀彦 ひでひこ さん(45歳)日高町水上



35mm映写機を前に



改装前最後の一般公開(平成26年3月)

改装中の豊劇(平成26年10月)

但馬最後の映画館として閉館した豊岡劇場(豊劇)。昭和2年に芝居小屋として始まり、社交ダンス場、映画館と大衆文化の「場」として多くの市民に愛されてきました。その建物を買い取り、豊劇新生プロジェクト(映画館、地域コミュニティ・全国のクリエイター)の拠点づくりを立ち上げたのが石橋秀彦さんです。

夢を与えてくれた「場」

中学生のとき「将来は映画監督になりたい」と思った石橋さん。きっかけは、豊劇で見た映画でした。当時、映画は華やかな文化の象徴。中学生の少年には「非日常を疑似体験でき、知識も得られる夢のような2時間。異文化を感じることもできる、街中では貴重な『場』でした。

映画の世界への強い憧れ：映画の勉強をするために、海外留学を決意しました。

昭和60年、地元の中学校を卒業後、北アイルランドに留学。「言葉でうまく表現できない中、自分のことを表現できる美術に面白さを感じた」と振り返ります。現代美術を学び、ロンドンでの作家活動後、

平成11年に帰国。東京で北アイルランド映画祭を主催しました。平成22年、豊岡に帰郷。その後、豊劇の閉館を知り「何とかできないか」と考えた結果、仲間とともにプロジェクトの立ち上げに至りました。

豊劇新生プロジェクト

プロジェクトでは①大ホールは引き続き映画の上映や演劇等の上演の場②小ホールは地域コミュニティの活動拠点③ロビーはカフェやバーなどに改装します。

特に小ホールは、ワークショップの開催、地元の高校生のバンドや高齢者のカラオケの練習などができる「場」に整備し、大ホールで成果を発表することも考えています。

持続可能な新生「豊劇」に

そもそも人口8万人の豊岡で映画を市民が受け入れてくれるのか、築87年の老朽化した建物の維持管理など、不安はありました。

平成24年11月、1日限りの上映会を開催しました。周辺住民の皆さんや参加者のアン

ケートから「改めて豊劇への思いや愛情を感じ、このプロジェクトへの多くの方の共感や協力を実感した」と手応えを感じました。

また、豊劇の改修工事には、多額の資金が必要で、自己資金や借入金、国の補助金などで調達しています。石橋さんは「11月20日まで、豊劇のホームページで、インターネットによる寄付『クラウドファンディング』を受け付けています。賛同いただける方は、協力をお願いしたいです」と話します。

市民の思いと共に

豊劇の復活に、二つの文化的な意味を感じる石橋さん。一つは、歴史的な建物の保存もう一つは、豊劇に出入りしていた市民の足跡です。おじいちゃんや孫と一緒に映画を見る、恋人がデートで映画を見る、館内のストロブを囲いながら友人と映画を見る。「市民にとって日常を共有できる文化の場」と話します。

今後は「豊岡での生活を楽しくするために、もっと文化的な楽しみを提案していきたいです」と意気込みます。

ま ち の 話 題

来日岳から望む雲海と朝日
キャンパスは空と雲

9月27日朝5時、車で走っていると、来日岳の辺りに白い帯状のものが浮かんでいました。同岳を登っていくと、その間にも、空は刻々と白んでいきます。頂上に着くと、眼下は雲海一色。空には、赤・オレンジ・紫色の線が幾筋も描かれています。この絶景をカメラに収めようと先客が並んでいました。

観客は徐々に増え、朝日が濃い朱色になり、くつきりした円となって登った瞬間、歓声が上がリ、シャッター音が響きました。案内はないけれど、毎年秋に催される自然のイベント。雲海は、11月も見られます。



▲一株ずつ丁寧に収穫する参加者

もち米の稲刈り体験
地域に再びにぎわいを!!

9月27日、出石町奥山の田んぼで、もち米の稲刈り体験(主催・奥山観光ほたるの郷)が開催され、兵庫県立大学の学生や福住小学校の児童ら約60人が参加しました。

奥山区は7世帯15人の集落です。イベントを通して、人々が集い、子どもの声がかきまますような地域を目指しています。

参加者は、鎌の使い方や注意点などを聞いた後、地域の方と一緒に稲を刈り、わらで束ねて稲木に掛けていきました。

初めて稲刈りをした大石陵翔くん(福住小2年)は「稲刈りが楽しかった。餅つきにも参加したい」と交流を楽しんでいました。



▲雲海の中の朝日、息をのむ神々しい光景

笑顔の輪

但馬で初の中学硬式野球チームです
但馬ベースポールクラブ

但馬ベースポールクラブは、中学生と練習生(小学6年生)の29人で組織する硬式野球クラブチーム。豊岡市とその周辺を拠点に活動しています。平成11年「硬式ボールを用

いる少年野球クラブを但馬に作ろう」と代表の藤野忠幸さん(養父市八鹿町)が友人に声を掛け結成しました。

土日の午前9時から出石球場か但東地域のやまびこグラウンドに集まり練習しています。人気のあるチームらしくクラブ員



▲中原監督とクラブ員(やまびこグラウンドで)

標に向かつて弛まぬ努力をすること⑤決してあきらめぬ精神力、と力強く訴えます。自主性を重んじ、「辛い人数もいますので、行事が重なれば学業を優先させています」。中学校の部活動に入っている生徒もいます。ただし、硬いボールを使うので「けが人を出さない」ことが肝心と話します。

あるチームらしくクラブ員は朝来市、養父市など、市外からも参加。かつては京都府から通うクラブ員もいたそう。監督は中原健児さん(出石町松枝)。クラブのモットー

ことが入会のきっかけです。50m6・6秒の俊足の1番セカンドです。「大会があと二つ10月・11月にあるので、優勝を目指したい」と意気込んでいました。

①礼儀②マナー③相手を思いやる心と感謝の気持ち④目

※詳しくはホームページ「但馬ベースポール」で検索を

※「笑顔の輪」の拡充版を市ホームページに掲載しています。